

俳句 大津俳句会

己が葉を叩きつつ散る落椿おちつばき

井芹眞一郎

ざわざわと波立つ心春の雨

相原 朋子

窓のぞき芝に粉雪静かなり

一上日登美

春炬燵いつのまにやら横になり

大塚喜久子

完走のがんばる子等や草萌ゆる

岡崎 浩子

寒風かんふうや若者元氣走り去り

香月のり子

合唱団声春色に広がれり

佐賀 久子

小流れこながやはるよはるよと瀬を走る

佐澤 俊子

梅の花大梵鐘だいぼんしょうと祈りをり

中嶋 清美

俳句 つのはな句会

家電品またも壊れる亀鳴いて

矢嶋 道子

春光や 九万年の岩の肌

梅木トキエ

臘梅ろうばいの黄の色淡し 君偲ぶ

塚本 洋子

立春の闇より少年ころげ出づ

柴田しのぶ

畑焼いて我が故郷を精算す

村田 健二

句座五十年句心ふつつ路の臺

志賀 孝子

農地にビル建ち片隅に青麦

田上 公代

葱坊主揺れて地蔵の口笛す

上杉 波

短歌 大津短歌会・野づかさ

指導 阿木津 英

母逝きて二十年経つこの野良着われはまど
ひて人参をぬく

坂本 果子

零下五度阿蘇よりくだす風吹きて矢護川棚
田にさざ波のたつ

鞍 岳志

平家追い公達を追いし京の女郎力尽き所石
どうそようと撫ずる

山本 泰子

まえ行くは同年代なり負けまいと歩幅を広
ぐ川浴いの道

高村 貴子

こな雪の降るは何ゆえに幼くて嬉しかり
にき

吉田 良子

デパートのレジに受け取る紙袋ビニールか
かれば雨と知りけり

本田 咲

雪はなお降り積もりゆき白き村小鹿田の村
静まりにける

田中 玲子

元旦の準備とどのう卓上に並ぶ十個の椀
の紅

豊岡ミツル

病院の窓より見える駐車場赤き車の雨に濡
れつつ

小平 善行

再びを使うことなき障碍者手帳を夫の棺に
いるる

吉永 恵子

阿木津 英(あきつ へい)
歌誌「八雁」編集発行人。歌集「紫木連まで風舌」ほか、著書多数。
第二十六回熊日文学賞受賞、第二十二回短歌研究新人賞受賞。
第二十八回現代歌人協会賞、第二十九回短歌研究賞など受賞。